(医療機関用：病院、診療所、歯科診療所)

令和６年度ジェネリック医薬品に関する医療機関アンケート調査票

《令和６年８月３０日（金）までにご回答ください》

「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」（平成 25 年 4 月 5 日、厚生労働省）に基づき、患者負担の軽減や医療費の健全化（医療保険財政の改善）を図るため、国や県においてはジェネリック医薬品（後発医薬品）の使用促進を図っており、その施策の参考とするためアンケート調査を実施します。ご多忙のところ誠に恐縮でございますが、アンケートへのご協力をお願いします。

なお、調査結果は今後の施策における検討資料とするほか、必要に応じて関係者、県民等に公表する予定としています（集計結果の公表のみであり、医療機関の個別の情報は公表いたしませんので、忌憚の無いご意見等をお願いします）。

問１.あなたの医療機関（病院・診療所・歯科診療所）の所在する市町はどちらですか。
また、医療機関の区分を選択してください。（単一選択式）

【所在地】

１．長崎市　２．佐世保市　３．島原市　４．諫早市　５．大村市　６．平戸市
７．松浦市　８．対馬市　９．壱岐市　10．五島市　11．西海市　12．雲仙市
13．南島原市　14．長与町　15．時津町　16．東彼杵町　17．川棚町　18．波佐見町
19．小値賀町　20．佐々町　21．新上五島町

【区分】

１．病院　２．診療所　３．歯科診療所

問２．あなたの医療機関の主な診療科目は次のうちどれですか。（複数選択式）

１．内科　２．神経内科　３．呼吸器科　４．消化器科　５．循環器科　６．血液内科
７．リウマチ科　８．小児科　９．外科　10．呼吸器外科　11．整形外科　12．形成外科
13．脳神経外科　14．皮膚科　15．泌尿器科　16．産婦人科　17．眼科　18．耳鼻咽喉科
19．精神科・神経科　20．放射線科　21．麻酔科　22．歯科
23．その他（　　）

問３．ご回答者の職種及び年齢をお答えください。（単一選択式）

【職種】

１．医師・歯科医師　２．薬剤師　３．事務職員　４．その他（　　）

【年齢（回答日時点）】

１．３０歳未満　２．３０歳以上４０歳未満　３．４０歳以上５０歳未満
４．５０歳以上６０歳未満　５．６０歳以上７０歳未満　６．７０歳以上

(医療機関用：病院、診療所、歯科診療所)

問４.《病院のみ回答》あなたの病院では、DPC に基づく医療費の包括支払制度等を導入していますか。（単一選択式）

１．DPC を導入している
２．DPC 以外の包括支払制度を導入している※
３．包括支払制度は導入していない

※地域包括診療料など

問５.あなたの医療機関の後発医薬品使用体制加算（令和６年５月時点）の有無についてお答えください。（単一選択式）

１．後発医薬品使用体制加算１（後発医薬品置換率９０％以上）
２．後発医薬品使用体制加算２（後発医薬品置換率８５％以上）
３．後発医薬品使用体制加算３（後発医薬品置換率７５％以上）
４．後発医薬品使用体制加算なし
５．対象外

問６.あなたの医療機関の外来後発医薬品使用体制加算（令和６年５月時点）の有無についてお答えください。（単一選択式）

１．外来後発医薬品使用体制加算１（後発医薬品置換率９０％以上）
２．外来後発医薬品使用体制加算２（後発医薬品置換率８５％以上）
３．外来後発医薬品使用体制加算３（後発医薬品置換率７５％以上）
４．外来後発医薬品使用体制加算なし
５．対象外

問７．あなたの医療機関では、院外処方せんを発行していますか。（単一選択式）

１．発行している（→問８以降へ）
２．発行していない（→問 11 以降へ）

問８.《問７で「１．発行している」と回答した医療機関》
あなたの医療機関では、院外処方せん発行において一般名処方を導入していますか。（単一選択式）

１．すべて一般名処方を導入している
２．一部に一般名処方を導入している　※いずれかに○をしてください。
（割合*：　０～２０%、　２０～４０%、　４０～６０%、　６０～８０%、　８０～１００%）
３．導入していない

*院外処方せんの全発行枚数に対する割合（令和６年５月分）

(医療機関用：病院、診療所、歯科診療所)

問９.《問８で「３．導入していない」と回答した医療機関》
一般名処方を導入していない理由は何ですか。（複数選択式）

1．処方せんを発行するシステムが対応できていない
2．医師や薬剤師などスタッフが一般名処方に対応することができない
3．一般名を使うことで医療過誤の可能性が高くなる
4．患者さんへの処方薬に関する説明が難しくなる（例．減薬の説明など）
5．一般名処方にすると患者さんに交付されるお薬の幅が広くなり過ぎる
6．適応症が異なるジェネリック医薬品があるため
7．その他（　　）

問 10.《問８で「３．導入していない」と回答した医療機関》
問９の問題が改善できれば、一般名処方を導入する可能性がありますか。（単一選択式）

1．ある
2．ない
3．未定

問 11．ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感はありますか？（単一選択式）

1．ある（→問 12 へ）
2．どちらともいえない（→問 12 へ）
3．ない（→問 13 へ）

問 12.《問 11 で「１．ある」、「２．どちらともいえない」と回答した医療機関》
不安感を抱いている内容についてお答えください。（複数選択式）

1．ジェネリック医薬品の効果の問題
2．ジェネリック医薬品の安全性の問題
3．ジェネリック医薬品の品質の問題
4．ジェネリック医薬品の供給体制の問題
5．メーカーの情報提供体制の問題
6．その他（　　）

問 13．あなたの医療機関では、ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用（院外処方を含む）したいと思いますか。（単一選択式）

1．すでに積極的に採用もしくは使用している（→問 16 へ）
2．積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない（→問 14 へ）
3．積極的に使用する必要はないと考えている（→問 15 へ）
4．その他（　　）（→問 16 へ）

(医療機関用：病院、診療所、歯科診療所)

問 14．《問 13 で「２．積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」と回答した医療機関》
ジェネリック医薬品の採用もしくは使用が思うように進まない理由は何ですか。（複数選択式）

1．ジェネリック医薬品の採用方法がわからない
2．院内での意思統一が難しい
3．備蓄医薬品（デッドストックを含む）が増える
4．患者さんへの説明業務が増える
5．疑義照会等が増える可能性がある
6．患者さんからの苦情が増える可能性がある
7．その他（　　）

問 15．《問 13 で「３．積極的に使用する必要はないと考えている」と回答した医療機関》
ジェネリック医薬品を積極的に使用する必要がないと思う理由は何ですか。（複数選択式）

1．ジェネリック医薬品の効果の問題
2．ジェネリック医薬品の安全性の問題
3．ジェネリック医薬品の品質の問題
4．卸売業者からの供給体制の問題
5．メーカーの情報提供体制の問題
6．業務量が増えるため（具体的に増える業務：　　）
7．経済的効果が見られないため
8．その他（　　）

問 16．令和６年５月現在、あなたの医療機関における先発医薬品とジェネリック医薬品の採用状況（品目数）についてお答えください。（記入式）

	内　服	注　射	外　用
先発医薬品	品目	品目	品目
ジェネリック医薬品	品目	品目	品目

※院内での採用品目数です

(医療機関用：病院、診療所、歯科診療所)

問 17．2020 年以降、複数の医薬品製造メーカーが起こした不祥事案に端を発し、後発医薬品における製品供給体制が不安定になりました。あなたの医療機関で採用している後発医薬品の「令和５年５月（約１年前）」及び「現在」の納入状況についてお答えください。（単一選択式）

（令和５年５月（約１年前）の納入状況）

1．希望した後発医薬品が発注数通りに納品された
2．希望した発注数通りではないが、調剤業務に影響が出ない範囲で納入された
3．納品が滞り、調剤業務に影響があった
4．発注ができない場合があった

（現在の納入状況）

1．希望した後発医薬品が発注数通りに納品されている（→問 19 へ）
2．希望した発注数通りではないが、調剤業務に影響が出ない範囲で納入されている（→問 19 へ）
3．納品が滞り、調剤業務に影響がある（→問 18 へ）
4．発注ができない場合がある（→問 18 へ）

問 18.《問 17 で、「３．納品が滞り、調剤業務に影響がある」、「４．発注ができない場合がある」と回答した医療機関》
医薬品の変更に対する患者さんの反応をすべて選んでください。（複数選択式）

1．対象品目が入手できない旨を説明し患者さんは納得された
2．対象品目が入手できない旨を説明したが患者さんは納得されなかった
3．変更については納得されたが、負担金が変わることに不満を訴えた
4．変更については納得されたが、製品が変わることに不安を持たれた
5．先発医薬品に変更することに同意された
6．後発医薬品の使用を推進することに対する不信感を訴えられた

問 19．あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は何ですか。（複数選択式）

1．医療用医薬品品質情報集（オレンジブック）に収載されている
2．安定性、生物学的同等性、添加物等のデータが揃っている
3．適応症が全く同じであること
4．剤形等の付加価値がある
5．取引のある医薬品卸で取り扱いがあること
6．入手、納品に要する時間が短いこと
7．安定供給の保障
8．小包装品があること
9．メーカーによる情報提供、情報収集の体制があること
10．メーカーの規模、知名度
11．薬価が安い医薬品であること（患者さんの負担軽減）
12．大学病院や近隣の基幹病院等での採用実績があること
13．その他（　　）

(医療機関用：病院、診療所、歯科診療所)

問 20．あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県ホームページに掲載している県内主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リストを参考にしていますか？（単一選択式）
（URL：https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/iyakuhin/generic/）

1．参考にしている　　2．参考にしていない　　3．掲載していることを知らない
4．その他（　　）

問 21．あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書を参考にしていますか？（単一選択式）
（URL：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/kouhatu-iyaku/index.html）
※国（厚生労働省）では、平成 20 年度から市場に流通する後発医薬品を対象に溶出試験等の品質検査を実施し、その検査結果を公表しています。

1．参考にしている　　2．参考にしていない　　3．掲載していることを知らない
4．その他（　　）

問 22．医学的見地から、ジェネリック医薬品が適さない、使用したくないと考える領域等（疾患など）があれば、お答えください。（自由記載）

【領域等（疾患など）】
（　　）
【理由】
（　　）

問 23.これまでに、ジェネリック医薬品の使用にあたり、院内の薬剤部又は院外処方せんを応需した調剤薬局との間で問題はありましたか。また、問題となった内容について簡単にご記入ください。（単一選択・記入式）

1．あった
具体的内容（　　）
2．なかった

問 24．ジェネリック医薬品には、剤形のサイズや味などに工夫がされ、患者さんが服用しやすいものがあります。ジェネリック医薬品に切り替えて、患者さんの服薬状況が良くなった、効果が良くなった等の事例があればお答えください。（自由記載）

（　　）

(医療機関用：病院、診療所、歯科診療所)

問 25．バイオシミラー（バイオ後続品）という言葉を知っていますか。（単一選択式）

1．知っている
2．知らない

問 26．あなたの医療機関では、バイオシミラー（バイオ後続品）を採用していますか。（単一選択式）
※あくまで医療機関内（院内）で使用するバイオシミラーがあることを指します。

1．採用している（→問 27 へ）
2．採用を検討中（→問 31 へ）
3．採用していない（→問 31 へ）

問 27．《問 26 で「1．採用している」と回答した医療機関》
令和６年５月現在のバイオ医薬品及びバイオシミラー（バイオ後続品）の採用品目数を教えてください。

	品目数
バイオ医薬品	品目
バイオシミラー （バイオ後続品）	品目

※院内での採用品目数です

問 28．《問 26 で「1．採用している」と回答した医療機関》
令和６年度の診療報酬改定で「バイオ後続品使用体制加算」が新設されましたが、あなたの医療機関が算定可能かどうか教えてください。（単一選択式）

1．算定可能
2．算定不可【理由】
〔　　〕

問 29．《問 26 で「1．採用している」と回答した医療機関》
バイオシミラー（バイオ後続品）を採用するにあたり、取り組んだことを教えてください。（複数選択式）

1．患者さんの負担について個々に検討した
2．他院の使用状況を調査した
3．学会・ガイドライン等を調査した
4．メーカーによる製品説明会を実施した
5．メーカーの信頼性や製品の品質調査を行った
6．先行品と後続品の併用採用をした
7．その他（　　）

(医療機関用：病院、診療所、歯科診療所)

問 30．《問 26 で「１．採用している」と回答した医療機関》
バイオシミラー（バイオ後続品）の採用について、今後の状況を教えてください。(単一選択式)

1．採用を拡大する
2．採用の拡大を検討している
3．採用拡大は検討していない（採用品目を拡大する予定はない）→ 理由の記載をお願いします

（　　）

問 31．バイオシミラー（バイオ後続品）の使用促進にあたり、どのような課題があると思いますか。(複数選択可)

1．バイオシミラーに対する医師・歯科医師の不安
2．バイオシミラーに対する薬剤師の不安
3．安定供給の不安
4．患者さん、患者家族等の納得を得るのが難しい
5．適応症の不一致
6．診療ガイドライン等でまだバイオシミラーが載っていない
7．臨床試験データ、品質情報の不足
8．レジメン管理の煩雑さ
9．公費負担制度による患者自己負担額の逆転現象がある
10. その他（　　）

問 32．バイオシミラー（バイオ後続品）の普及促進のために必要なことは何だと思いますか。(複数選択式)

1．医師・歯科医師の理解
2．薬剤師の理解
3．医療機関及び薬局の理解
4．患者さん、患者家族の理解
5．医療機関に対するインセンティブ
6．その他（　　）

問 33．地域フォーミュラリという言葉を知っていますか。(単一選択式)

1．よく知っている
2．少し知っている
3．聞いたことはあるがよくわからない
4．まったく知らない、聞いたことがない

(地域フォーミュラリの補足説明)

「医療機関等において医学的妥当性や経済性等を踏まえて作成された医薬品の使用方針」を意味するものとして用いられています。

(医療機関用：病院、診療所、歯科診療所)

問 34．あなたの医療機関でフォーミュラリを定めていますか。（単一選択式）

1．既に定めている
2．今は定めていないが定める予定がある
3．今は定めていないが興味はある
4．定めていない（今後定める予定はない）

問 35．あなたの医療機関では、患者さんがジェネリック医薬品を頼みやすくなるような工夫をしていますか。（複数選択式）

1．受付窓口に「ジェネリック医薬品希望カード」を用意している
2．普及啓発用のポスターや説明板等を掲示している
3．普及啓発用のリーフレット等を用意し、患者さんが入手しやすいようにしている
4．相談窓口を設けたり、説明担当の薬剤師等を配置したりしている
5．ジェネリック医薬品に関するビデオ等を流している
6．診察時に患者さんの意向を尋ねるようにしている
7．特に工夫していない
8．その他（具体的に　　）

問 36．本県では定期的（年１～２回）に有識者を招いて医療従事者向けのジェネリック医薬品に関する研修会（参加費無料）を開催しています。希望する研修の内容についてお答えください。（複数選択式）

1．国の審査制度に関すること　　2．効果に関すること　　3．品質に関すること
4．安全性に関すること　　5．製剤（添加物、溶解性等）に関すること
6．バイオシミラーに関すること　　7．地域フォーミュラリに関すること
8．他医療機関の取組み等に関すること
9．その他（　　）

問 37．ジェネリック医薬品の利用に関して、行政（厚生労働省、長崎県福祉保健部薬務行政室）に対し要望することがあれば、該当するものを２つ以内で選んでください。（２つ選択）

1．ジェネリック医薬品が市場に流通するまでの審査の仕組みについての周知
2．医療関係者へのジェネリック医薬品に関する情報の提供（研修会の開催など）
3．患者さんへのジェネリック医薬品に関する情報の提供
4．品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導
5．ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり
6．薬局でジェネリック医薬品を確実に選択できる体制づくり
7．その他（　　）
8．特になし

(医療機関用：病院、診療所、歯科診療所)

問 38．最後に、医療機関名等をご記入ください。（記入式）

医療機関名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

所　在　地：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｔ　Ｅ　Ｌ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｆ　Ａ　Ｘ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｅ-ｍａｉｌ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

回答者名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

その他、後発医薬品についてご意見等がありましたら自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。以上でアンケートは終了です。

内容をよくご確認のうえ、同封の返信用封筒にて返信してください。

〒850-8570　長崎市尾上町３-１

長崎県福祉保健部薬務行政室

担当）藤井

TEL）095-895-2469、FAX）095-895-2574

E-mail）s04740@pref.nagasaki.lg.jp